



私たちは重症心身障害児者のサポート団体です

<http://nakanodream.main.jp/>

〒164-0012 中野区本町 6-36-5-102 TEL03-6454-1230



年頭にあたり

新年明けましておめでとうございます。

昨年、なかのドリームは法人化して 10 周年を迎えることができました。当法人を利用されている方々、法人で働く方々、理事の方々、会計士や社労士さん、そして賛助金などで陰から応援して頂いている方々、皆様のご支援ご理解に改めて心から感謝申し上げます。

ここ 10 年、障碍児者を取り巻く環境は少しずつ良い方向へ向かっているように感じます。2021 年には通称「医療的ケア児支援法」が施行され、医療的ケア児への支援は国や地方公共団体の責務であることが明記されました。背景には、国内外の当事者、支援者、先輩らが長い年月をかけて社会に声をあげてきた粘り強い活動の歴史があることを私たちは知っています。当法人もそうした歴史の一部として、ささやかながら障碍児者とその家族が住みやすい地域社会を模索してきた 10 年だったように思います。

一方で医療的ケア児を支える地域資源の不足や人材確保・育成、法人を持続的に運営することのむずかしさなど課題が山積しています。今後も山あり谷あり、険しい道が続くでしょうが、どうぞこれからもよろしくお願い致します。

昨年は夏休みを利用して、念願だった広島に初めて行ってきました。夕方に到着したホテルの窓からは眼下にライトアップされた原爆ドーム、遠くに瀬戸内海の小島が遠望され、どの町とも異なる独特の場所であることを直感しました。原爆ドームは単なるモニュメントだろうと思っていましたが、実際にその下に佇むと、破壊されたドームを当時のまま残そうとする強い意志が感じられて圧倒されました。平和記念資料館では、原爆投下前に撮影された満面の笑みを浮かべる小学生達ときちゃんとネクタイをしめた先生との集合写真が、その後の悲劇の序章として、とても印象に残りました。ヒロシマは原爆の記憶を宿す土地であるとともに、その記憶を伝承する使命を帯びた反核反戦の土地でもあることを実感しました。

昨年末、奇しくもノーベル委員会は被爆者による草の根運動を担ってきた日本被団協に対して、平和賞を授与しました。

受賞理由を選考委員長はスピーチしています。「日本被団協と被爆者たちは『そこにいた人たち』と『歴史の暴力に触れていない私たち』との橋渡しをし、核兵器使用は道徳的に許されないとする国際規範(核のタブー)を築き上げ、比類なき活動を実践してきた。しかし現在進行形の紛争では、核兵器を使用するという脅迫が公然と繰り返され、より不安定な核時代を迎えようとしている。1945 年以来、核兵器が使われていないという一筋の光を認識すべきで、核兵器に依存しながら文明を存続できると信じることは浅はかです。いつの日か歴史の証人としての被爆者がいなくなっても、日本内外の若い世代の人々が、メッセージを受け継いで世界中の人々を鼓舞し、被爆者たちの遺産を伝えていくことになるでしょう。」

終わりの見えない紛争、制御不能な大国のエゴ、悲惨なニュースがあふれ、つい塞ぎがちになってしまいます。韓国では昨年 12 月に大統領が非常戒厳令を宣布し、解除後も混乱が続きました。そんな中、抗議デモで若者達が KPOP の歌を合唱している動画をみました。

「この世界で繰り返される悲しみよ、もうさようなら」
(『Into the New World』少女時代)

本年は良い年でありますように。

理事長 高田功二

クリスマス制作

おでんくらぶで、クリスマスの制作をしました。

色をつけた紙粘土を丸めて、子どもたちが自分の手でぎゅっと握ったり、手のひらでぺたぺた伸ばしたりして、好きな形を自由につくりました。飾りのパーツを選んだら、指で押してつけます。個性豊かな、クリスマスオーナメントができました。

紙皿に丸めたお花紙をつけて、リースも作りました。



訪問介護は体力と技と想い！

訪問介護なべは、重度障害児・者、難病の方がほとんどの事業所です。立ち上がれないお子さまの入浴介助や移乗は、完全なお姫様抱っこで力がいらいます。痰吸引・胃ろう注入、文字盤によらない「エアフリック」の読み取りは技術がいらいます。酷暑、雨天、強風、極寒の中でも自転車いでお宅を回り、体力と気力の勝負です(笑)。

私の年齢が上がる毎に、いつまで続けられるのだろうと不安さえ覚えます。それでも続けてこれるのは、利用者様のご家族の愛情、利用者様の笑顔、働いてくださるヘルパーさんたちの想いが伝わるからです。今後も日々の体力維持を続け利用者様とより長く過ごしていけるよう努力しますので、よろしくお願いします。(管理者 松田 弥生)



寄附金で、訪問介護なべ、おでんくらぶ、相談支援事業ご利用者様へクリスマスプレゼントをお渡ししました



利用者様と松田管理者

おでんくらぶ 事業報告 (管理者:鈴木美穂子)

- * 登録者数:35 名(児童発達支援 4 名・放課後デイ 31 名) 2024 年 12 月現在
中野区 20 名 杉並区 13 名 渋谷区 2 名
(うち、おでんくらぶでの医療的ケア実施対象者は 16 名)
- * 職員数:16 名(管理者等 1 名・保育士 3 名・看護師 7 名・訓練士 2 名・運転手 3 名)
- * 月利用のべ人数と一日の平均利用人数、および利用率

9 月	10 月	11 月
102 人	118 人	110 人
5.3 人	5.6 人	5.5 人
107%	107%	110%

訪問介護なべ 事業報告 (管理者 松田 弥生)

- * 利用者数:20 名 (うち介護保険利用者 6 名)
- * 職員数:管理者兼サービス提供責任者 1 名・非常勤介護職員 20 名
(2 名増 1 名減 2025 年 1/1 現在)

なかのドリーム相談支援 事業報告 (管理者 佐藤 浩子)

- * 利用者数:8 名 (2 名増)
- * 相談支援専門員:2 名
- * 働き続けたい保護者の要望も増えてきましたが、重症心身障害児・医療的ケア児を支える介護事業所や看護事業所が少ないのが課題です。

研修・会議等:

- 9/7 NPO 法人なかのドリーム第 49 回理事会
- 9/19 子ども家庭庁「医療的ケア児支援センターの機能強化等に関する調査研究」第一回委員出席
- 10/1 中野区障害者施設における感染症対策
- 10/18 東京都障害者虐待防止・権利擁護研修(訪問介護なべ)
- 10/22 中野区相談支援専門員事例検討会
- 10/28 中野区医療的ケア児等支援情報連絡会
- 11/2・16・12/21・22 東京都医療的ケア児コーディネーター研修
- 11/20 東京都医療的ケア児に対する看護職員育成研修
- 11/20 医療的ケア児支援法を見直す(埼玉県小児在宅医療支援研究会)
- 11/27 感染症対策研修(おでんくらぶ)
- 12/11 療育研修「指しゃぶり行動の背景を考える」(おでんくらぶ)
- 12/11 東京都医療的ケア児等コーディネーター現任者研修
- 12/23 中野区医療的ケア児支援協議会委員出席

寄附金で購入しました！



みなさまからのご寄付で、おでんくらぶで使用する医療用品を購入いたしました。緊急時に使用するアンビューバックの小児用セットです。ご寄付いただき、ありがとうございます。

賛助会費・寄付金のお願い

賛助会費 1 口 3,000 円
寄 付 金 1,000 円～
賛助会費が寄付金が明記下さい

① 【ゆうちょ銀行から振込】
[口座記号・番号]
00190-3-420254

② 【他金融機関から振込】
ゆうちょ銀行
[店名・店番] 019
(ゼロイチキュー)
[種 目] 当座
[口座番号] 0420254
[口座名] 特定非営利活動法人なかのドリーム